

第5学年 国語科学習指導案

指導者 傳田 正晴

1 単元名

会話をはずませよう

2 目標

- 進んで自らの日常会話を振り返り、問題点や改善策を明確にしようとしている。(関心・意欲・態度)
- 相手の話の意図を考えながら聞き、適切に受けて自分の考えを話し、内容が深まるような会話をすることができる。(話すこと・聞くこと的能力)
- 会話において、自分たちの会話の仕方の伸びや課題について、自分自身を見つめ直し、自己評価カードに反省点に記入することができる。(書くこと的能力)
- 教材文の例文の会話のどこが・どのようにかみ合わないのか、会話がかみ合わない理由について読み取り、自分の考えや感想をもつことができる。(読む能力)
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

(1) 教材について

新学習指導要領の第5学年及び第6学年の目標に、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる」とある。また、「A話すこと・聞くこと」の内容(1)イは、「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」となっている。

これを受け、本単元では、「会話の練習」の活動を通して学習を進めていくことで、児童の関心・意欲が高められるように単元を構成した。また、この教材は児童の日常会話によく見られるかみ合わない会話例とかみ合った会話を成立させるための留意点が具体的に提示されている。

提示された会話例を分析することにより、児童は、自分たちの会話の問題点を具体的にとらえることができると思う。会話をする時には、相手が何を伝えようとしているのか、相手が何を知りたいのかを聞き取り、それを受けた返事をするのが大切である。そのような指導過程を明確にした学習活動を通して、相手の話を適切に受けて話すことの必要性を実感するために大変有効な教材である。

(2) 児童の実態(19人)

1	人前で話すことが好きである。	好き	8人	苦手	11人
2	友だちの話をしっかり聞くことができる。	できる	15人	苦手	4人
2	自分の感想や考えをわかりやすく伝えることができる。	できる	9人	苦手	10人
3	会話を成り立たせるための話し方や聞き方を十分理解し、普段の生活の中で実践することができる。	している	5人	していない	14人
4	話し合い活動では、友だちの考えと自分の考えを比べながら話し合うことができる。	いつもしている	9人	時々している	8人
				していない	2人

本学級の児童は、「話すこと・聞くこと」への興味・関心はさほど高くない。やはり、物語文のように叙述に即して登場人物の気持ちなどを、自由な発想をもとに考えたりすることの方を好んでいるようである。しかし、4月の県の学力診断テストをみると、「話す相手や目的・場に応じて適切に話す力」に大きな課題があるという結果が表れている。授業の様子を見ても、ややもすると、直観的に話してしまう傾向にあり、話す相手や目的に応じて、言葉や話し方に着目

して丁寧に話そうとする態度はまだ十分に身につけてはいない。1学期当初に行った「伝え合おう、5年生でがんばりたいこと」の学習においても、自分の思いや考えを積極的に話そうとはしていたが、個別にスピーチを聞きながら、「どうして?」「例えば?」などの問いかけをして、話し方や聞き方の工夫に気づくことは難しいようであった。

(3) 指導にあたって

本単元では、こうした児童の実態を踏まえ、「話すこと・聞くこと」における学習課程の工夫を通して、自分の言葉で生き生きと伝え合う児童の育成を目指している。

そのために、本単元では、まず「会話の練習」を学習活動の中心に置き、会話を成り立たせるための話し方や聞き方を意識し、会話を深めていく練習を通して、児童の意欲を低下させぬように話すことの活動を進めていきたい。また、かみ合った会話を行うことができるようにするための手立てとしては、会話を成り立たせるための話し方や聞き方の良い例や悪い例を示し意識させたい。そして、会話を深めていく練習をたくさんさせることによって、会話を行うことに慣れさせていきたい。

最終的には、自信をもって、自分の言葉で生き生きと伝え合う児童を育成することを目指してしていきたい。

4 学習計画（4時間扱い ③／4）

時	学習内容	評価規準
1	・会話の練習をする計画を立て、教科書の例文を読んでかみ合わない会話の問題について話し合う。	㊦㊧例文の会話がかみ合わない理由に気づき、友だちの意見を受け入れて話し合いを深めている。(行動観察・発言)
2	・自分たちの経験をもとに、会話が弾んだ例や弾まなかった例について話し合い、会話をするときに気を付けなければならないことについて考える。	㊨自分たちが日常行っている会話を振り返り、会話の仕方に関心を持とうとしている。(発言・行動観察)
③ ・ 4	・会話を成り立たせるための話し方や聞き方を意識して、会話を深めていく練習をする。	㊩㊪相手の話の意図を正しくとらえ、内容が深まるように話したり聞いたりしている。(行動観察・発言・ノート)

5 本時の学習

(1) ねらい

話し方や聞き方を意識して、話題に沿って質問したり応答したりしながら、会話を深めていくことができる。

(2) 本時の主張点

本時においては、グループインタビューゲームを通して、自他の対話力の伸びや課題を具体的にとらえさせる授業を展開していく。4人組の形式で、インタビューゲームを行うことにより、会話の仕方を身に付けると共に、話し方や聞き方を意識し、会話を深めていく練習をさせたい。

また、インタビューゲームが円滑に行われている班を抽出し、全体の前で発表してもらうことによって、他の班の児童は自分たちの取り組みを振り返ることができるように工夫していきたい。

(3) 準備・資料

学習の手引き、話題カード、自己評価カード

(4) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・支援※評価（方法）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">話し方や聞き方を意識して、会話を深めていく練習をしよう。</div> <p>2 グループインタビューゲームの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの進め方の確認 ・役割や質問順の決定 <p>3 グループインタビューゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人1組となり、以下を1クールとし、質問者の順を変え3回繰り返す。 <p>(1) Aの質問とDの回答</p> <p>(2) Bの質問とDの回答</p> <p>(3) Cの質問とDの回答</p> <p>(4) Aの感想発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クールの間は、同じ話題で会話することとする。 ・発言と発言との間は、5秒以内とする。 ・回答者は、質問の内容に合った応答をする。 <p>4 教師が抽出した代表のグループが全体の前で、もう一度インタビューゲームを行う。</p> <p>5 抽出グループのインタビューゲームを見た感想を出し合う。</p> <p>6 ゲームを振り返り、自分たちの会話の仕方のよい点や課題について話し合う。 グループの中で、司会を一人決め、短い時間で意見を交換する。</p> <p>7 自分たちの会話の成果と課題を振り返り、本時の学習の自己評価と感想を書く。</p> <p>(1) まず、4つの観点に沿って、自己評価を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと会話する学習を楽しいと感じたか。 ・話題にそってたずねたり応答したりできたか。 ・相手の話をどのように受け止めたかを示しながら会話できたか。 ・豊かな表情で、ゼスチャー等を交えながら会話できたか。 <p>(2) できるようになったこと・もっと頑張りたいことを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、かみ合った会話をするためのポイントを確認する。 <p>・「学習の手引き」を活用して、具体的な会話例を提示しながらゲームの進め方を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題は、たくさん用意した話題カードから回答者が引いて決定する。 ・話題に沿って質問を重ね、より深い情報を引き出したり、相手の知りたいことを具体的に答えたりすることができるか児童の様子を観察しながら机間指導するようにする。 ・声が小さくて聞き取れなかったり、緊張してスムーズに言葉を発することができなかったりする場合は、一度会話を止め、落ち着いてもう一度繰り返すように助言する。 ・うなずいたり、相づちをうったりして聞いている児童に対しては、その場で称賛を与える。 <p>・他のグループの児童には、自分のグループと比較してどこがすぐれているのかを考えながら見るように助言する。</p> <p>・どこがよかったのか、参考になった点は何か等自分の率直な意見を言わせるようにする。</p> <p>※グループインタビューゲームを通して、自分と友だちの対話力のよい点や課題を具体的にとらえ、話し方や聞き方を意識して、会話を深めることができたか。（観察、自己評価カード）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価カードを活用することにより、具体的な観点から本時の活動を振り返ることができるようにする。 ・自分の会話を振り返り、よい点や改善すべき点が不明確な児童に対しては、自己評価カードへの朱書きを通して教師がとらえた伸びや課題を具体的に伝える。 ・何人かの児童にできるようになったことと、もっと頑張りたいことを発表させる。 <p>また、児童にA・B・Cの自己評価と感想を書</p>

	くように促し、次時の意欲付けをする。
--	--------------------